

# リレー 随 想

第4回

福岡いのちの電話評議員  
福島あい子  
(弁護士)



## 心に寄り添う

弁護士になって36年になりますが、「いのちの電話」と接点があるかなと思える、心に残る事件があります。

Aさんとは13年前、少年事件の付添人として出会いました。当時Aさんは14歳、中学3年生の女子でした。幼い時に母親を亡くし、父親も13歳の時に亡くなって、施設で暮らしていました。親戚は何人もいたのですが、Aさんが問題を起こすので誰も引き取ってはくれませんでした。Aさんに関する書類の中には、「施設に入る前はお金も食べる物もないので、学校の菜園から野菜を盗んで煮炊きしていた」や、「お父さんが死んだ時、自分も生きてゆけないと思った」等々の記載がありました。戦後の混乱期でもないのにと驚くとともに、Aさんの力にならなければと強く思いました。

その後、Aさんは施設に戻って猛勉強し、1.7倍の倍率を勝ち抜いて夜間高校に合格しました。残念ながら高校は中退しましたが、まじめに働いて貯金をし、一人暮らしの後に結婚して子どもも授かりました。ところが、試練は続くもので、夫の暴力に耐えかねて幼子を連れて家を出て離婚。この間問題が起こる都度に私

は様々な形で関わってきました。

最初の数年間は突っ張っていて何かと問題を起こすので、私はその都度方々から呼び出され、対応に苦慮しました。けれども、当時Aさんは「自分も生きていけない」という思いを抱えており、突っ張らなければ、自分を支えきれず、生きてゆけない状況だったのだと思うのです。仕事と子育てを両立させ、折々に連絡してくれるAさんとは、和やかで緩やかな関係が続いています。そんなAさんに微力ながらも寄り添い、少しは力になれたかなと思えることは、幸いなこととして私の心に刻まれています。

24時間対応の「いのちの電話」の活動は大変困難なものだと思います。けれども、電話をかけたことで心が救われ、もう少しだけ頑張ってみようと思える人がいるのは確かだと思います。今後も活動が順調に継続し、希望の灯を見いだせる人がありますようにと願うとともに、少しでもお役に立てるように努めたいと思っています。

## NEW! 「いのちの電話」自販機

JR篠栗線「城戸南蔵院前」駅に「福岡いのちの電話」支援自動販売機が新設されました。南蔵院へのお参りや、お遍路のお供にご利用ください。この自動販売機は南蔵院様の賛同により設置されました。心よりお礼申し上げます。

